

第一三共の沿革 ～統合までの歩み～

第一三共は、創薬型企業としてそれぞれ100年の歴史を持つ三共と第一製薬が統合して生まれた会社です。両社ともに1980年代から、グローバルでの事業展開・新製品の開発上市を行い、プラバスタチン、レボフロキサシン、オルメサルタンは、ブロックバスター*となりました。

* ピーク時の売上が年1,000億円(もしくは10億ドル)を超える新薬

日本においては、誠実で信頼される営業活動で長期に亘って高いプレゼンスを維持してきました。サイエンスに重きを置き、早い時期からグローバル展開し、日本のリーディングカンパニーとして歩みを進めた両社の歴史が現在の第一三共に繋がっています。

三共の歴史

三共は、発酵や動植物などからの生体物質の抽出といったバイオ系の研究から見出されたタカジアスターゼ、アドレナリン、オリザニンなどを事業化し歩みを始め、その後もそのバイオ系の研究の流れを汲む抗生物質を数々生み出してきました。高コレステロール血症治療剤として、世界の医療を変革したスタチン製剤プラバスタチンもまた、バイオ系の発酵技術を活用して生み出された画期的新薬でした。有機合成においても、ベストインクラスとなったロキソプロフェンやオルメサルタンを生み出してきました。



1899

三共商店を設立(塩原又策(左写真)、西村庄太郎、福井源次郎の共同出資による) 消化酵素剤**タカジアスターゼ**を発売



1902

世界で初めて抽出に成功した副腎髄質ホルモン剤**アドレナリン**(製品名アドリナリン)を発売



1910

鈴木梅太郎博士(三共学術顧問)、米ぬかから世界初のビタミンB1(**オリザニン**)を発見し、ビタミン学説の基礎を確立



1913

三共株式会社を設立 初代社長に高峰譲吉博士が就任



1951

かぜ薬**ルル**を発売



1986

消炎鎮痛剤**ロキソプロフェン**(製品名ロキソニン)を発売

1989

世界的に画期的な高コレステロール血症治療剤**プラバスタチン**(製品名メバロチン)を発売



2002

グローバル製品の高血圧症治療剤**オルメサルタン**(製品名オルメテック、ベニカー)を発売(2004年に日本で発売)

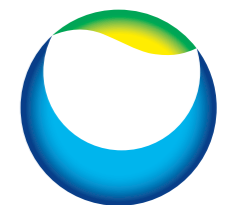


2005

第一三共(三共と第一製薬との共同持株会社)を設立してスタート

2007

新生第一三共グループとしてスタート



Daiichi-Sankyo

第一製薬の歴史

第一製薬は有機合成技術により生み出した、化学療法剤の草分けであるサルバルサンの国産化からその歩みを始めました。その後、抗プラスミン作用(止血作用・抗炎症作用)が、再び注目されているトラネキサム酸を事業化し、循環器領域で抗血小板療法を切り拓いたチクロピジンの開発上市に成功してきました。合成抗菌剤の傑作とも言われるレボフロキサシンはその幅広い抗菌活性で日本のみならず世界的に歴史に残る抗菌薬となりました。



1915

慶松勝左衛門、アーセミン商会を設立 当時、国民病の一つであった梅毒治療薬**サルバルサン**国産化



1918

第一製薬株式会社が発足 初代社長に柴田清之助が就任



1921

現在も使用されている血液収縮止血・喘息治療薬**アドレナリン**(製品名ボスミン)の製造を開始



1965

抗プラスミン剤**トラネキサム酸**(製品名トランサミン)を発売



1981

抗血小板剤**チクロピジン**(製品名パナルジン)を発売



1993

広範囲経口抗菌剤**レボフロキサシン**(製品名クラビット)を発売



1985

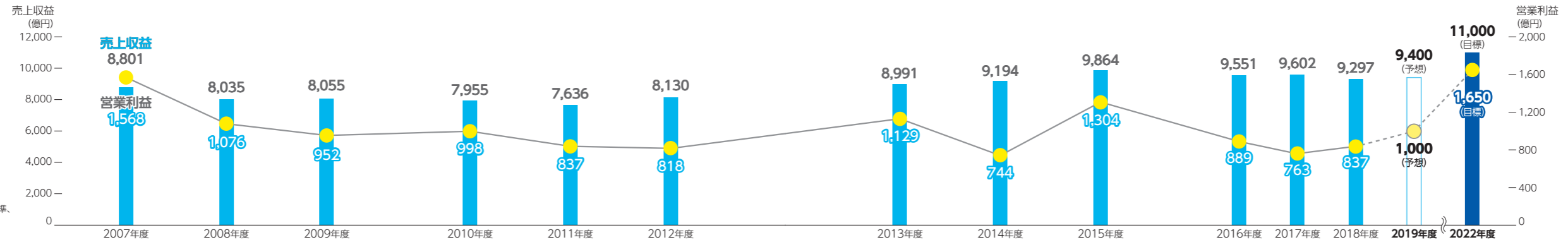
広範囲経口抗菌剤**オフロキサシン**(製品名タリビッド)を発売

第一三共の沿革 ~統合後の歩み~

第一三共は、100年の長い期間に亘り受け継がれてきたサイエンス&テクノロジーの強みを活かして、先進的医薬品の創出に挑戦し続けています。旧社のサイエンス&テクノロジーから生み出されたオルメサルタン、エンドキサバンを第一三共として強力に育てグローバル製品として成長させてきました。第一三共の将来を担うADC*フランチャイズにおいても三共のバイオ系の技術が抗体部分に、第一製薬の合成の技術がリンカーと薬物部分に引き継がれています。

* Antibody Drug Conjugateの略。抗体薬物複合体

ADCフランチャイズの一番手として、DS-8201をいよいよ2019年度に申請をします。また、アストラゼネカ社とグローバルに共同開発・販売を行う契約を締結しました。本提携によって、開発加速・拡大、早期市場浸透を図ることで、より早く、より多くの患者さんにDS-8201を届けていきます。加えて、グローバル市場で自社のがん事業体制構築を加速するとともに、他のプロジェクトへもリソースを配分し、開発を加速していきます。



※ ランバクシー社を除く
※ 2011年度まで日本基準、2012年度よりIFRS

第4期中期経営計画についてはP32~58をご覧ください。

	第1期中期経営計画	第2期中期経営計画	第3期中期経営計画	第4期中期経営計画	
中期経営計画の取り組み概要	統合シナジー創出と成長基盤の拡充 <ul style="list-style-type: none"> 血栓・がん・糖尿病領域の重点化 オルメサルタンフランチャイズの極大化 2008年のランバクシー社のグループ化 	グローバルハイブリッドビジネスの推進 <ul style="list-style-type: none"> 血栓・循環代謝・がん領域の重点化 日本事業の基盤拡充 フロントエンド・バックエンドでのランバクシー社との協業 	パテントクリアを越えた持続的成長の実現に向けた取り組み推進 <ul style="list-style-type: none"> 血栓・循環代謝・がん領域の重点化 ランバクシー社の分離決定・完全売却 イノベティブ医薬品事業への回帰 	2025年ビジョンの達成に向けた経営の転換 <ul style="list-style-type: none"> 2017年度パテントクリアの克服 持続的成長基盤の確立 	
新製品の販売	<ul style="list-style-type: none"> 日本 ロキソニンテープ 米国 エイゾール 米国 エフィエント 欧州 セビカー 欧州 エフィエント 	<ul style="list-style-type: none"> 日本 ロキソニンゲル 日本 レザルタス 日本 イナビル 日本 ネキシウム 日本 メマリー 日本 リクシアナ 日本 ランマーク 日本 テネリア 米国 トライベンゾール 欧州 セビカーHCT 	<ul style="list-style-type: none"> 日本 プラリア 日本 エフィエント 米国 インジェクタファー 米国 サベイサ 米国 モバンティック 欧州 リクシアナ 	<ul style="list-style-type: none"> 日本 ビムパット 日本 カナリア 日本 タリージェ 日本 ミネプロ 米国 モルファボンド 	
重要な経営判断	製品導入	<ul style="list-style-type: none"> 日本 デノスマブ 米国 チバンチニブ(開発中止) 欧州 チバンチニブ(開発中止) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本 ネキシウム 	<ul style="list-style-type: none"> 米国 CL-108(導入後権利返還) 日本 ビムパット、フルミスト グローバル TS23(導入後権利返還) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本 ハートセル 日本 バイオシミラー9品目 日本 Axi-Cel® 日本 AG*3 4品目 米国 モルファボンド 米国 ロキシボンド 欧州 高脂血症治療剤
	買収	<ul style="list-style-type: none"> 欧州 U3ファーマ社 グローバル ランバクシー社 米国 ファルマフォース社 	<ul style="list-style-type: none"> 米国 ベツレヘム工場、プレキシコン社 	<ul style="list-style-type: none"> 米国 アンビット社 日本 アイム社 	
	事業展開 事業再編 その他	<ul style="list-style-type: none"> 欧州 トルコ・アイルランド展開 米国 プエルトリコ展開 	<ul style="list-style-type: none"> 日本 ジェネリックビジネス開始 日本 ワクチンビジネス開始 日本 大阪工場閉鎖 日本 静岡工場譲渡 	<ul style="list-style-type: none"> 日本 秋田工場譲渡 日本 米国・欧州 日本・米国・欧州事業再編 グローバル サン・ファーマ社によるランバクシー社吸収合併 グローバル サン・ファーマ社株式売却完了 	<ul style="list-style-type: none"> 日本 長期収載品41製品譲渡 日本 第一三共プロファーマ高槻工場譲渡決定 日本 第一三共ケミカルファーマ平塚工場閉鎖 欧州 米国 欧州・米国営業体制再編 米国 米国ベツレヘム工場売却 グローバル 研究開発拠点4社閉鎖、決定 グローバル DS-8201アストラゼネカ社と提携
ESG	<ul style="list-style-type: none"> G 取締役:任期1年、10名中4名が社外取締役 G 指名委員会、報酬委員会設置 G 監査役会設置(4名中2名が社外監査役) G 執行役員制度 E S G FTSE4Good*1に初選定、以降継続 E S G Dow Jones Sustainability Indices*2 (Asia Pacific Region)に初選定、以降継続 	<ul style="list-style-type: none"> E S G 第一三共グループ企業行動憲章の改正 E S 国連グローバル・コンパクト参加 S 第一三共Presents家族のきずなシアター開始 S Daiichi Sankyoくすりミュージアム開設 S 開発途上国での移動診療サービス開始 	<ul style="list-style-type: none"> G 社外役員の独立性判断に関する具体的基準を制定 G コーポレートガバナンス・コードの各原則を全て遵守・実施 S グローバルヘルス技術振興基金「GHIT Fund」参画 S 第一三共グループバリューレポートがUCDAアワード*4 2015最優秀賞受賞 S 第一三共グループ個人行動原則の制定 	<ul style="list-style-type: none"> G 「コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー® 2017*5」において「Winner Company」受賞 E S G [Dow Jones Sustainability Indices] (World Index)に2年連続で選定(2017、2018) E S G バリューレポート2018が「日経アニュアルレポートアワード」で優秀賞を受賞 S 「えるぼし」の最高位取得(2018年)、「ホワイト500」認定(2018年)、「プラチナくるみん」取得(2019年) 	

*1 FTSE Russell社が、企業の社会的責任に対する取り組みを評価している指標
*2 S&P Dow Jones Indices社とRobecoSAM社が、企業の持続的可能性を評価している指標

*3 先発医薬品メーカーからの許諾を受けて製造される後発医薬品 *4 コミュニケーションデザインに関する表彰
*5 中長期的に健全な成長を遂げている企業を後押しすることを目的とした日本取締役協会主催の企業表彰

2025年ビジョン
がんに強みを持つ
先進的グローバル創薬企業